



医療連携だより

公立置賜総合病院医療連携・相談室 ☎0238-46-5000 内線 1902, 1409

住民の安全・安心のために

事務局長

中山 芳昭

特集:

住民の安全・安心
のために

事務局長
中山芳昭 ……1

院長コラム ……2

医療連携副部長
紹介 ……2

新任医師紹介
……3

退院支援について
……3

医療連携・相談室
からのお知らせ
……4

この4月に事務局長として着任しました。よろしくお申し上げます。平成22年度最初の「医療連携だより」ということで、まず、今年度の医療連携室の体制を御紹介申し上げます。

医療連携室は、従前から医療連携業務のほか、患者の医療相談や福祉相談等に対応してきたところですが、この



たび、業務内容と室名とを一致させるため、「医療連携・相談室」と室名変更したところで

す。また、地域内の医療機関や福祉施設等との一層の連携を図るため「地域連携専門員」を新たに配置し、組織力の強化を図ったところです。

室の名前は変わりましたが、地域において適時適切な医療を実践するためには、医療連携は必要不可欠な取り組みであると考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

さて、着任後数カ月が過ぎましたが、現在の心境などを申し上げ、着任の挨拶にかえさせていただきますと思います。

今から35年以上前の学生の時、所属していたサークル活動により、飯豊町中津川中学校に隣接した青年研修所に合宿させていただきながら、旧石器時代に属する上屋地遺跡の発掘調査を行ったことがあります。

その調査の最中に、友人の一人が蜂に刺され、見る見るうちに腫れあがってきたため、急遽、中津川診療所で手当を受け、事なきを得たということがあります。

このような些細な経験ではありますが、医療は、普段は気にもしないもので、一旦有事の際は、非常に頼りになる存在であるということを改めて認識させられた出来

事でした。

このように、地域住民から頼りにされ、安全・安心に寄与し、喜ばれる、医療という仕事の一部なりとも担うことができることについては、私自身秘かに誇りと思っているところであります。

今後とも、よろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。

院長コラム

地域医療支援病院を目指して

～連携のツールとしてのITの活用の具体化も含めて

地域医療支援病院

承認要件

- ・200床以上の病院
- ・紹介率 80% or 紹介率 60% 逆紹介率 30% or 紹介率 40% 逆紹介率 60%
- ・他医療機関に対して 高額医療機器や病床の共同利用
- ・地域の医療従事者対象に研修実施
- ・救急医療の提供

当院は地域医療支援病院を目指して医療連携・相談室を中心として種々の努力をしています。ご存知とは思いますが、地域医療支援病院の概略を述べさせていただきます。

疾病は一つの医療機関で診断から治療まで完結するとの考え方が以前は主でありました。しかし、昨今は地域で疾病をシームレスに完結するのが最適です。

地域でのシームレスな医療とは、

- ①かかりつけ医で診断がつきにくい患者さんを、地域医療支援病院で診断し、治療法を決定し、かかりつけ医で治療を行っていただく。
- ②かかりつけ医で診断されても治療が困難な場合に地域医療支援病院に

支援病院を名乗ることができません。本院が地域医療支援病院を名乗るには、外来は主に紹介患者を診察し、その後はかかりつけ医の先生方に診ていただくことが条件です。したがって本院では医師会と協力しながら地域住民にかかりつけ医を持っていただくことの重要性について啓発活動を一層推進してまいります。

時に、かかりつけ医がいるのにもかかわらず、紹介状なしで来院される方がおります。その際は、紹介状の作成をFAXでお願いすることと致しました。その際は、紹介状を後日FAXでお送りいただくことをお願い申し上げます。当然ながら診療結果につきましてはご報告申し上げます。↗

紹介していただき、治療後にかかりつけ医で治療の継続、あるいは経過観察をしていただく。

③インターフェロンなど副作用の対応が必要となる疾病は地域医療支援病院とかかりつけ医がより緊密な連携の上で治療を継続するものです。

このように地域医療支援病院は地域住民が良質で最適な医療を受けるため、地域医療の要であるかかりつけ医の先生方が地域医療支援病院の有する人的資源、またソフト、ハードの医療資源を効率的にご利用していただく医療機関であり、地域でのシームレスな医療には欠かせない医療機関です。

ところでご存知のように、日本の医療行政にあっては独自に地域医療

当院では時に紹介患者が予約時間に診察されないのご指摘があり、早急に解決すべく努力しております。ご理解いただくようお願い申し上げます。

さて、今や医療においては連携が重要なキーワードです。特に、地域医療支援病院では連携は必須です。連携のツールとしてITは最適です。当院ではITを紹介予約と紹介された患者さんの情報をリアルタイムでかかりつけ医に参照していただくべく準備中です。ITのツールとしての活用は地域医療支援病院のみならず置賜全体で進めていかなければならない課題です。是非、置賜2次医療圏が医師会を中心としながらITを利用した医療圏として山形県、さらには日本をリードして行きたいとの夢を述べながらご挨拶とさせていただきます。



院内掲示ポスター

“「かかりつけ医」を持ちましょう”
8月より掲示を始めました。

4月より医療連携部に新たに2名の医療連携副部長が配属されました。



内科(消)科長 渡辺 晋一郎

描いていた人生設計では地域に入っているはずの年齢で、なぜか病院にとどまり本職を任命されたことに因縁めいたものを感じます。

今後とも、ご指導の程よろしくお願ひ致します。



整形外科医長 大楽 勝之

病-病連携、病-診連携を密接にするだけでなく、それを住民に理解してもらうことで置賜の医療ネットワークが効率よく機能するものと思います。ご協力・ご指導お願ひ致します。

新任医師紹介

4月以降、当院に赴任された先生方です。



4月



眼科
高村浩



整形外科
松木宏史



外科
長谷川繁生



内科(血)
山本雅一



泌尿器科
武藤明紀



整形外科
長谷川浩士



内科(呼)
福崎幸治



内科(腎)
星川仁人



内科(糖)
多田杏子



内科(腎)
新野弘樹



循環器科
加藤重彦



循環器科
山浦玄斎



精神科
山崎猛



外科
佐藤多未笑



心臓血管外科
皆川忠徳



整形外科
江藤淳



教育研修部
佐藤洋三



教育研修部
渡邊祐介



教育研修部
坂本未央



教育研修部
鈴木聡子

5月



小児科
枝松秀尚

7月



小児科
仙道大



放射線科
大木望



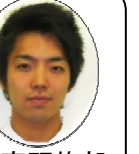
教育研修部
鈴木武文



教育研修部
荒木勇太



教育研修部
伊藤歩美

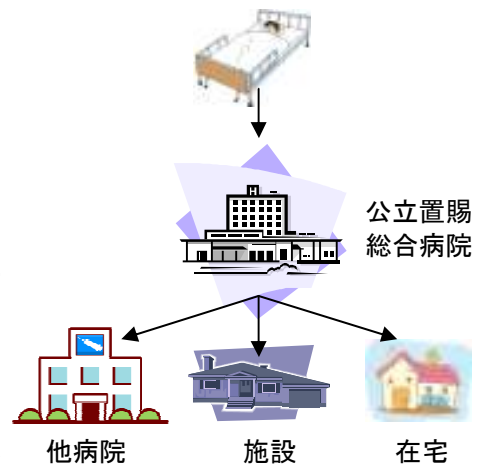
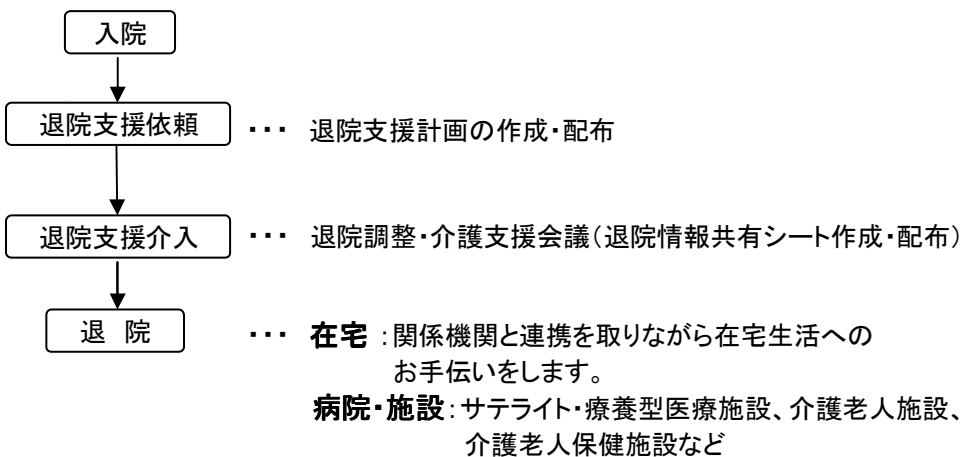


教育研修部
岡村賢

退院支援

「退院？どうしたらいいの？」不安を抱えて入院する患者さん・ご家族ができるだけ困ることのないように入院時から退院後の生活を視野に入れ、患者さん・ご家族の意向に合わせ支援をさせていただきます。

<退院支援の流れ>



※医療機関の機能分化で医療完結型から地域全体を包括した医療連携が求められています。皆様のご理解・協力をよろしくお願い致します。

公立置賜総合病院

〒992-0601
山形県東置賜郡川西町
大字西大塚 2000 番地

TEL:
0238-46-5000

予約センターTEL:
0238-46-5700

FAX:
0238-46-5722

E-MAIL:
renkei@okitama-hp.or.jp

病院理念
心かよう信頼と安心の病院

置賜広域病院組合
公立置賜総合病院
www.okitama-hp.or.jp

紹介件数・逆紹介件数ともに月平均件数が昨年度に比べ約100件増加しております。今後とも、ご協力よろしくお願い致します。

「地域歯科診療支援病院」の施設基準を取得

地域の先生方のご協力により、平成22年5月1日に、「地域歯科診療支援病院の施設基準を取得致しました。

今後とも、医療連携にご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。



予約センター電話回線を増設

平成22年7月まで、「電話がつながりにくい」といったご意見を患者さん、地域の先生方より多数いただきました。ご迷惑をお掛けし大変申し訳ありませんでした。

これを受け、8月より電話回線を2回線から3回線と増線させていただきました。

今後は、予約センターへの連絡が繋がりがやすくなりますので、ぜひご利用下さい。



「診察予約申込書」の導入

平成22年4月より「診察予約申込書」を導入しました。

これにより、迅速な予約取得が可能となりますので、ぜひご利用いただきますようお願い致します。

※当分は、様々なご意見をいただきながら、様式変更致します。変更後は早急に送付致します。

